

書評

日野原重明, 福井次矢 編集

あなたとともに よい医療を

岡田 定(聖路加国際病院内科医長)

この本は、「日本の医療と教育をいかに変革すべきか」の提言書です。ご存じ日野原先生と、日野原先生の愛弟子福井先生との対談です。日野原先生はどうしていつもあんなにバイタリティにあふれているのだろう？ 新臨床研修制度が開始されたが、どうすれば本物の教育ができるのだろう？ 日本の医療はこんなままでいいはずはない。今後どうすればいいのだろう？ このようなあなたの疑問に答えるメッセージ集です。

医療に携わって70年、しかもその1日1日に圧倒的な密度がある人生。その日野原先生のメッセージを受け止め、繰り返すことは尋常な技ではありません。総合診療・EBMの推進者で医学教育の改革者でもある福井先生という稀有な対談者を得て、日野原先生はまさに水を得た魚です。革新的なメッセージが次々と飛び出します。

過去ではなく未来を語る人、評論家ではなく実行の人、病める人、日本の医療・教育に自分の命を捧げている人、先生の面目躍如たるメッセージが連なります。先生の生きがい、幸せの源泉が迫ってきます。「先生の話は何度も

聞いた」という方にも、きっと、はっとする新しさがあり、発見があります。

日野原「臨床能力というのは、基礎工事をしてからビルを建てるようなものではなく、植物の種をまき、芽が出て成長していく姿に似ている……」,「教育の原理というのは、患者に触れることですね、患者のからだと心に触れることがいちばんです」

福井「患者さんの立場に立ったヒューマンスティックな医師は、今の大学教育では育ちににくいですね。病院を主たる教育の場とする医学教育にしないかぎり、根本的な変化は起こらないのでは……」

日野原「もっとフランクに医療情報を公開して、だれもが自由に医療を批評できる雰囲気ができれば……すばらしい批評が出てくる……」

「臨床教授」40年、「臨床研修義務化」30数年、「生活習慣病」20年。日野原先生によって多くの種がまかれ、いくつかはやっと芽が出て苗木に育っています。しかし、多くの種はまだ地に埋もれたままです。

大きな転換期を迎えている日本の医療と教育。地に埋もれた種に命を与えるために、あなたも一緒に考え、行動しませんか。本書はそう問いかけています。

(A5判 240頁 定価1,365円(本体1,300円+税5%))
2004年 インターメディカ 刊